

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
126

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 252集】 photo ヴァージョン

photopos 3126-3150

《2023.3.31～ 2023.4.24》

神秘学遊戯団

歩くために
歩く

行く先は決めない

遊ぶために
遊ぶ

ただ戯れる

歌うために
歌う

だれかにでなく

知るために
知る

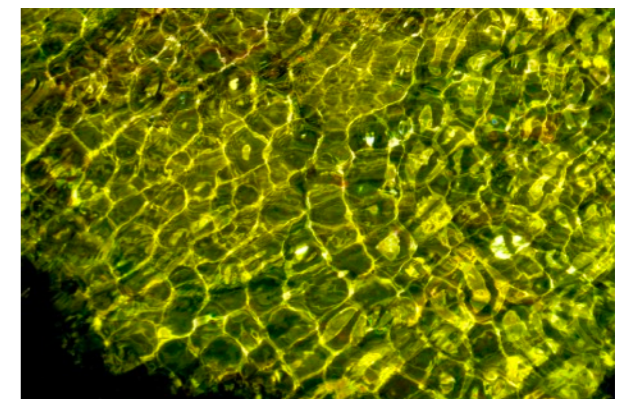
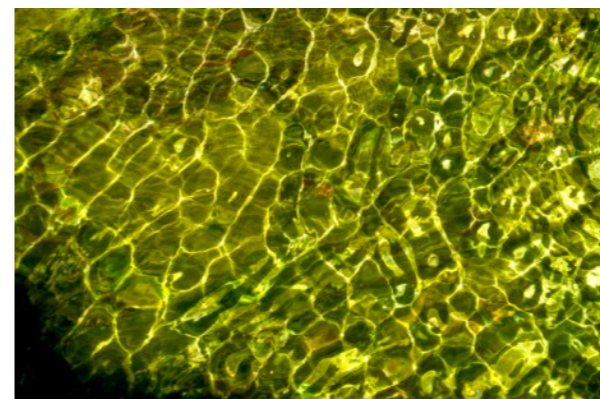
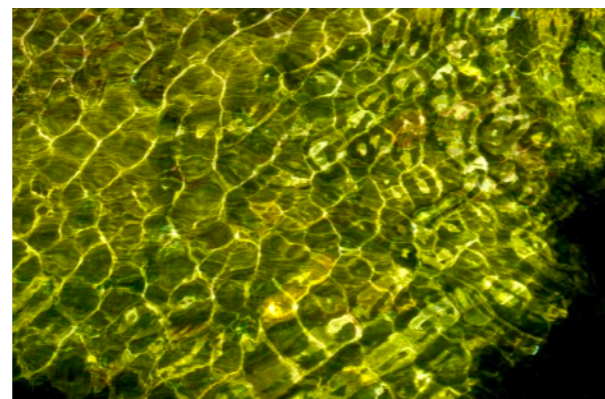
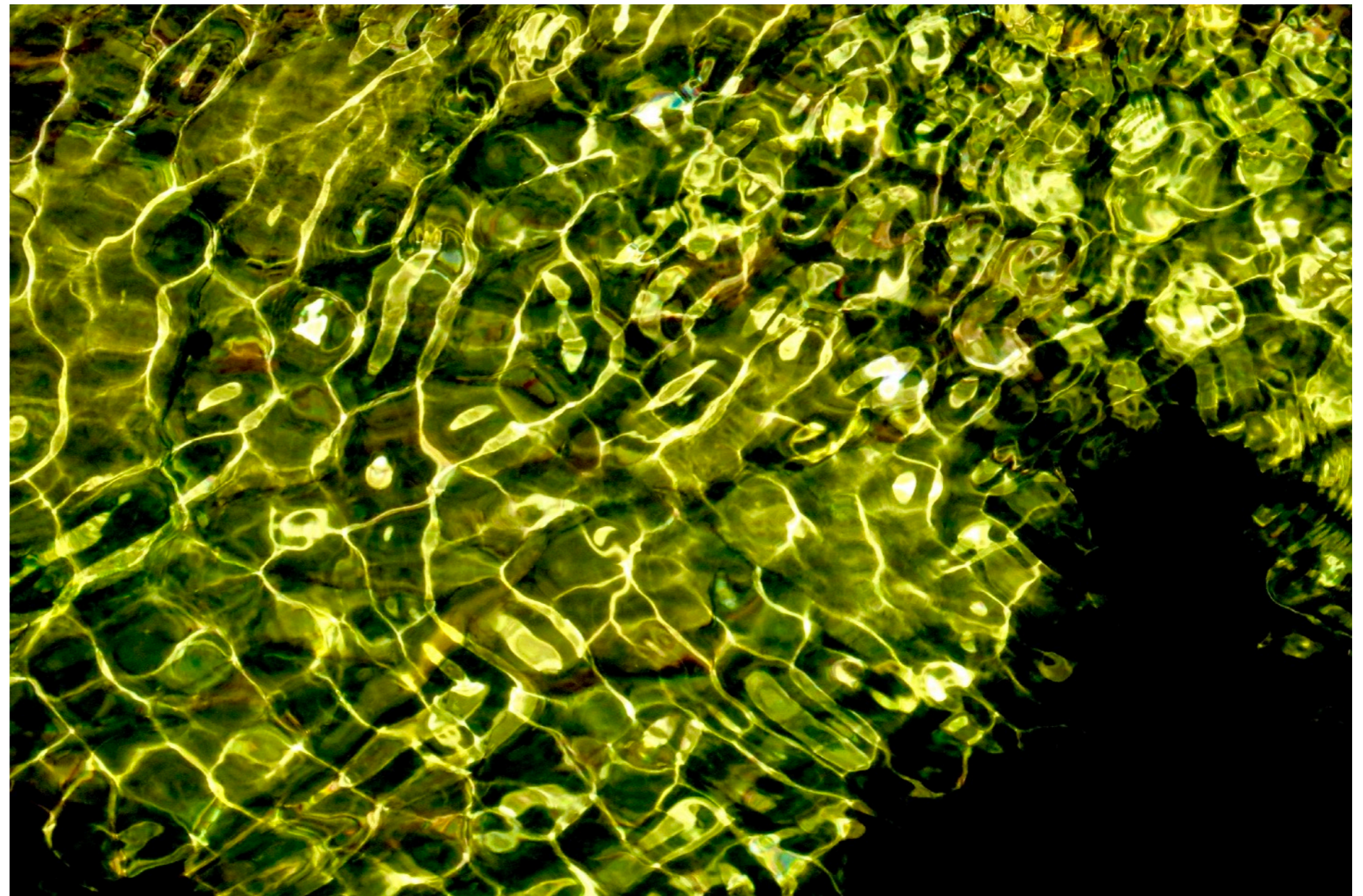
知識のためでなく

愛するために
愛する

愛されるためでなく

生きるために
生きる

ただ生きる



はじめは
渾沌

渾沌に孔を開けたら
死んでしまった
そんな噺があるけれど

たぶん
死んでお終いじゃない

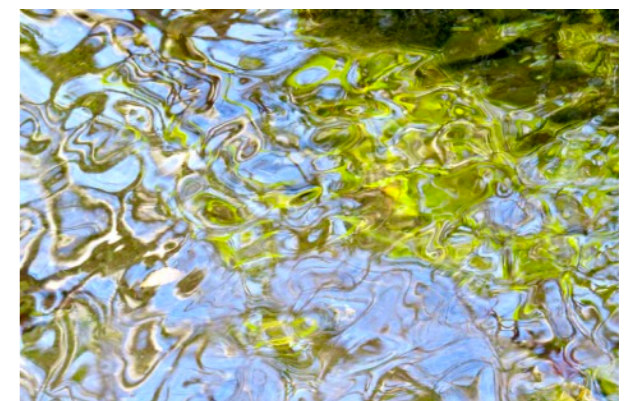
死んだ後に復活する噺
死んだからこそ復活できる噺
そんな後日談があってもいいだろう

もちろん
復活した渾沌は
孔を開けられる前の渾沌じゃない

はじめの渾沌は
一のままだったが
復活した後の渾沌は
三となったのだ

なぜ二じゃないのかといえば
二だと分裂して死んでしまうからだ
復活するためには
二をむすぶ三でなければならない

そうして世界はあらたに
渾沌からひらかれてゆく

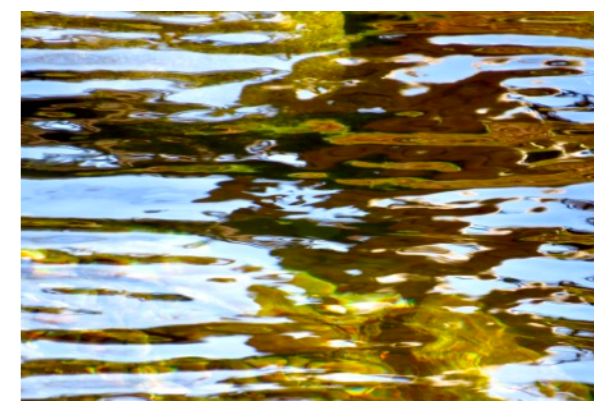
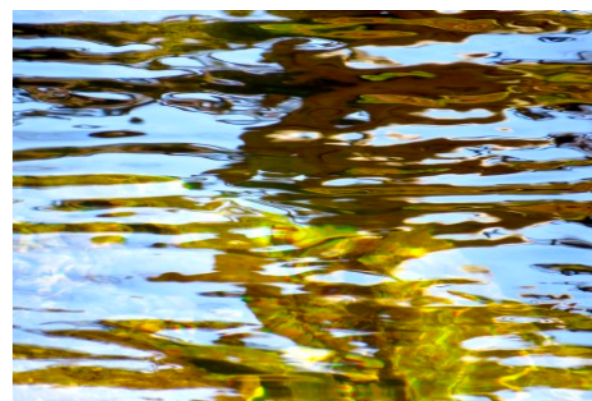
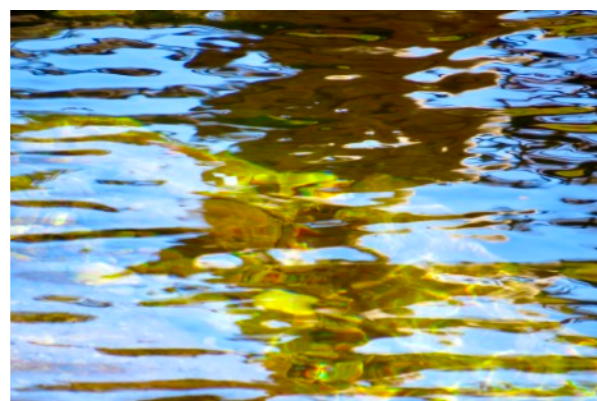
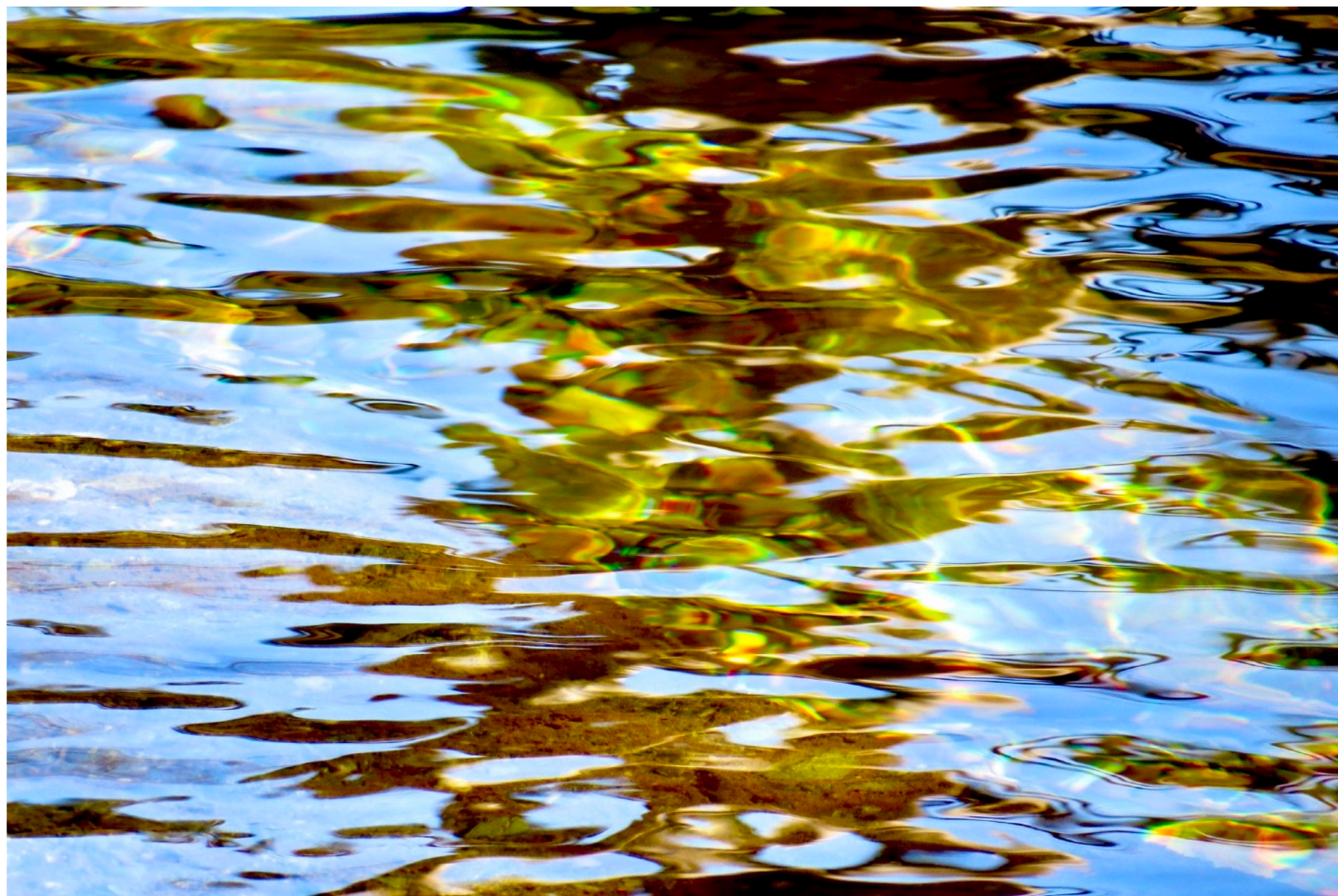


じぶんは見えない
のに
鏡に映ったじぶんを
じぶんだと思っている

右手を挙げれば
左手が挙げられ
左手を挙げれば
右手が挙げられる
そんなじぶんを

じぶんに見えないものは
たくさんあるのに
見えないはずはない
そう思っている

遠くを見るとき
近くは見え
全体を見るとき
部分が見えず
見たいものを見るとき
見たくないものはみえないのに



☆photopos-3129

2023.4.3

変わること
変わらないこと

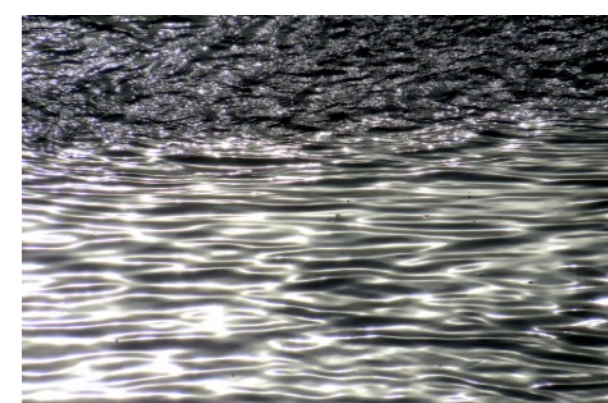
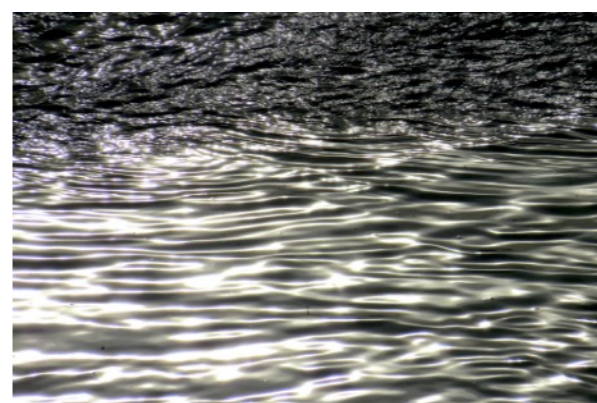
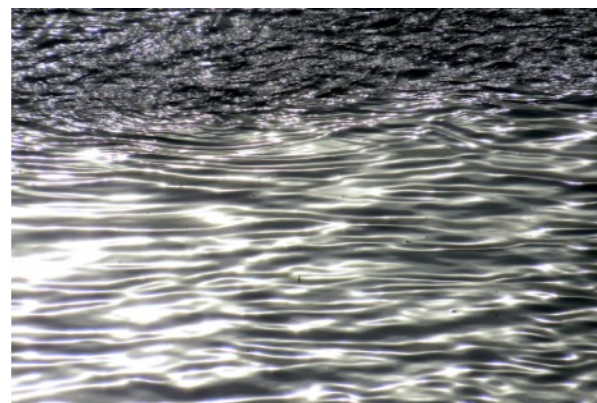
変わろうとしても
変われないのは
なぜだろう

変わりたくなくても
変わってしまうのは
なぜだろう

変わっても
わたし
変わらなくても
わたし

なにがおなじで
なにがおなじでないのか

そんな
矛盾を生きる
わたしという謎



※愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3130

2023.4.4

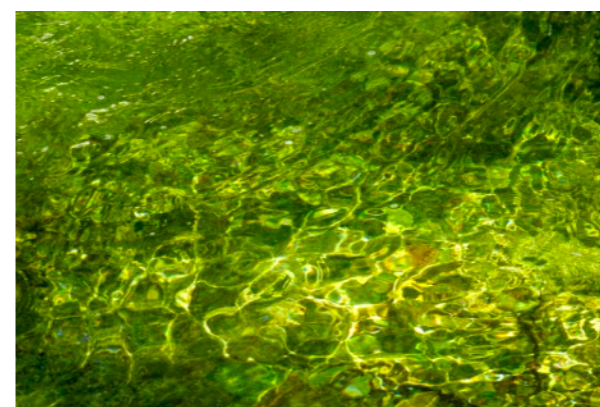
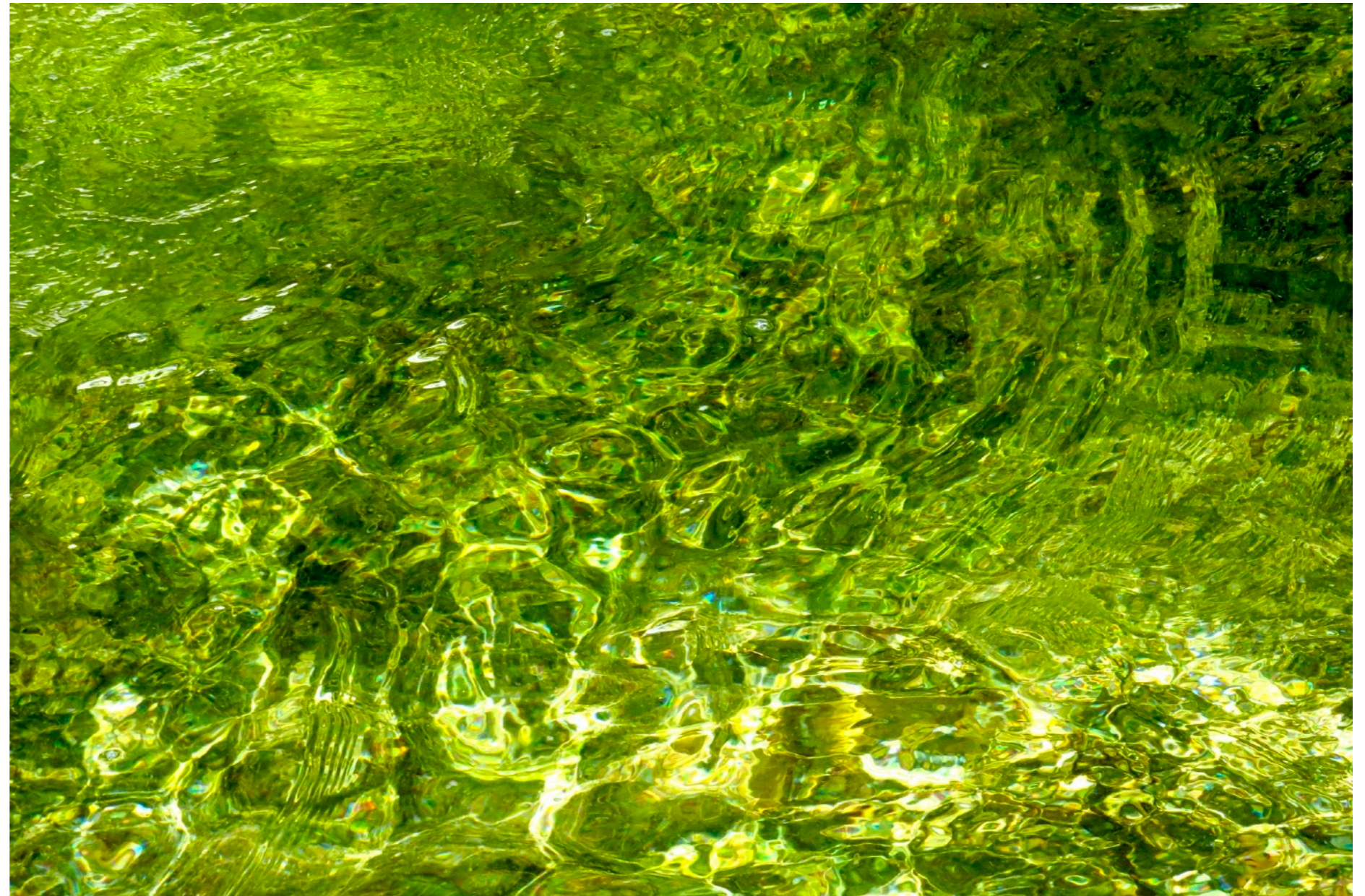
形なき形を
見るために
見えない形を
物にする

形なき形を
計るために
見えない形を
数にする

形なき形を
語るために
見えない形を
言葉にする

形なき形を
聴くために
見えない形を
歌にする

形なき形を
構想するために
見えない形に潜む
謎を問い続ける



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

わたしは
どこへ
行こうというのだ

この道は
どこに
つづいているのか
道の先は見えない

どの道を
歩いてきたのか
来た道もすでに見えない

見えないながら
わたしは道を歩き
どこかに行こうとしている

近道を探して
迷い込んだのか

歩き疲れて
寄り道をしているのか

はたして
近道はあるのだろうか

回り道こそが
近道だという声も聞く



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

わたしが
つくる
とき
つくられている

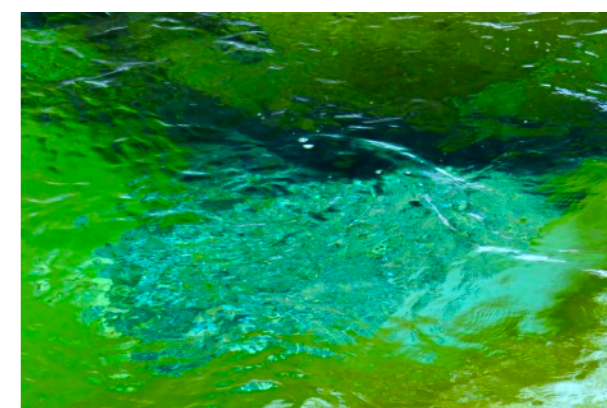
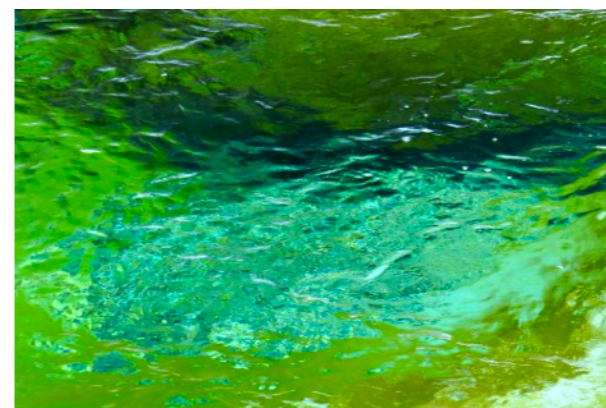
つくる
と
つくられる
のあいだで
わたしたちはひびきあう

わたしが
あらわす
とき
あらわされている

あらわすと
あらわされる
のあいだで
わたしたちはひびきあう

わたしが
であう
とき
であわれている

であう
と
であられる
のあいだで
わたしたちはひびきあう



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

光のなかでは
光は見えないから
ひとは闇へと向かうのか

闇のなかで
みずからを見失うことで
光を求めようとするように

美のなかでは
美は見えないから
ひとは醜を必要とするのか

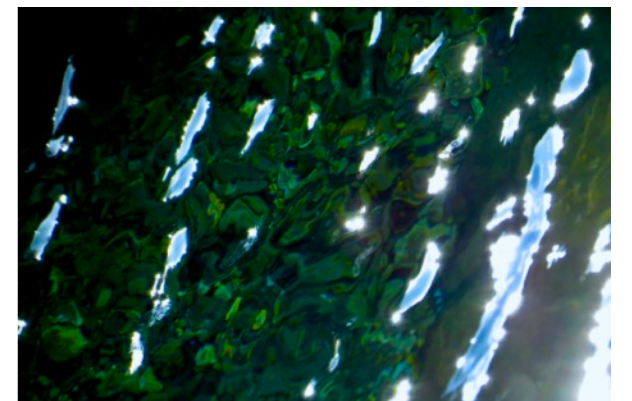
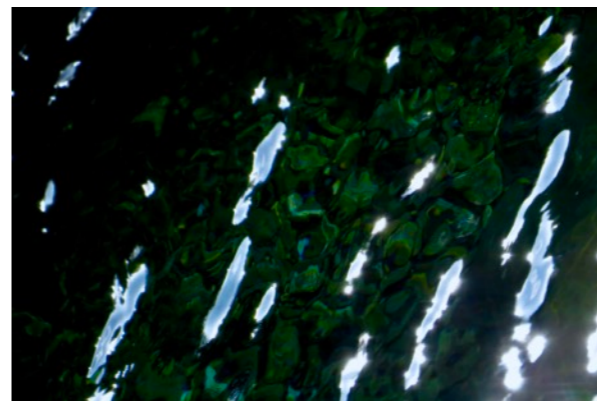
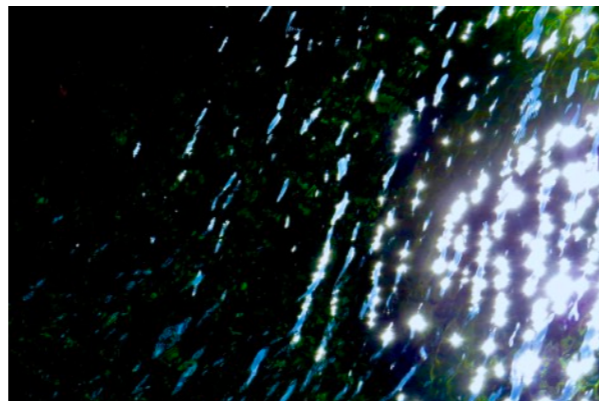
醜と隣り合わせにあることで
そこに美を見出せるように

知のなかでは
知は見えないから
ひとは愚を求めもするのか

愚のなかに
みずからを見出すことで
知を照らせるように

私のなかでは
私は見えないから
私はあなたを求めるのか

あなたのなかに
私を照らすことで
私が私であることを確かめられるように

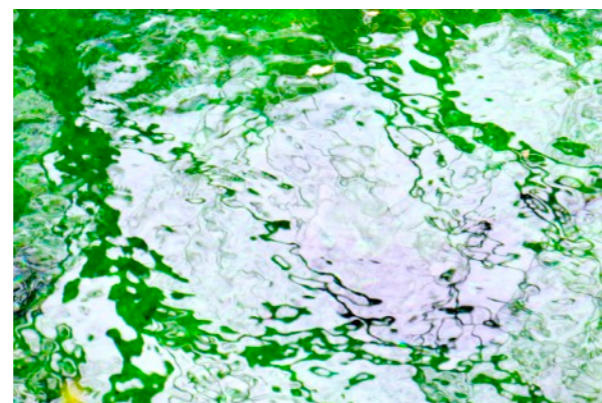


もうやめようじゃないか
賢そうに見せるための演技なんか
そんなことをすればするほどに
愚かさは隠せなくなってくるから

もうやめようじゃないか
善きひとに見せるための道徳なんか
そんなことをすればするほどに
悪しきひとになってしまうから

もうやめようじゃないか
世のためだと偽るような言葉なんか
そんなことをすればするほどに
世の底をその毒で汚してしまうから

もうやめようじゃないか
無駄をなくすことばかり
 気にすることなんか
そんなことをすればするほどに
遊びの豊かさを失くしてしまうから



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

☆photopos-3135

2023.4.9

与えられるものは
そのまま
受けとることはできない

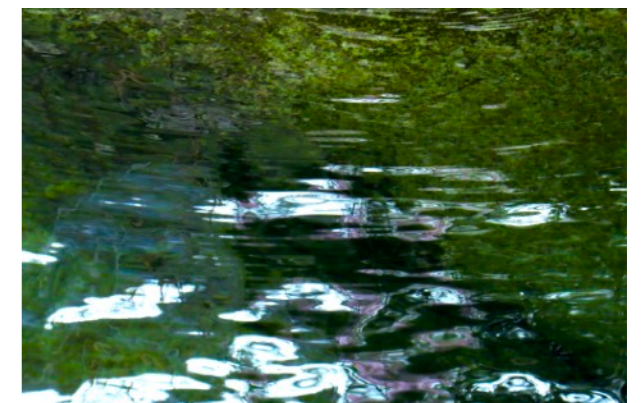
受けとるということは
そのことそのものが
つくるということだからだ

つくることで
はじめて
受けとることができる

教えられることが
そのまま
学ぶことではないように

聞くことが
そのまま
聴きとることではないように

そして
生まれてくるものが
そのまま
生きることではないように



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

☆photopos-3136

2023.4.10

せかいの
ふしぎが
みえたなら

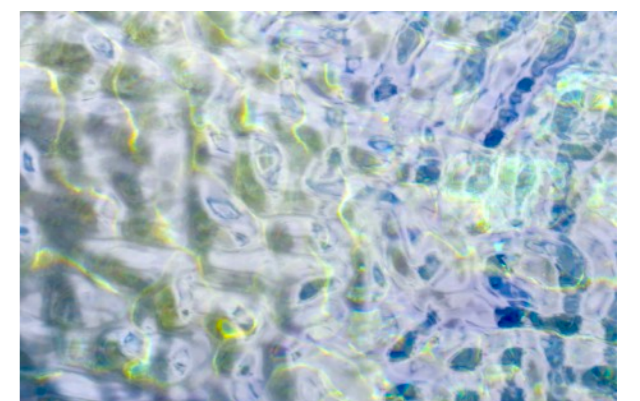
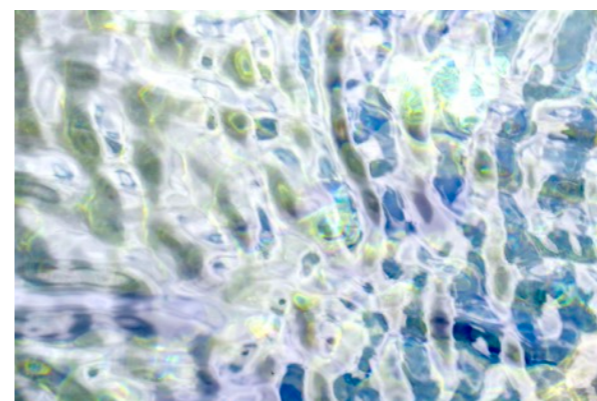
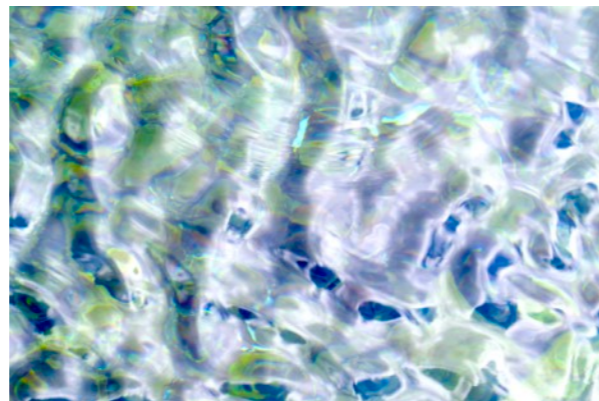
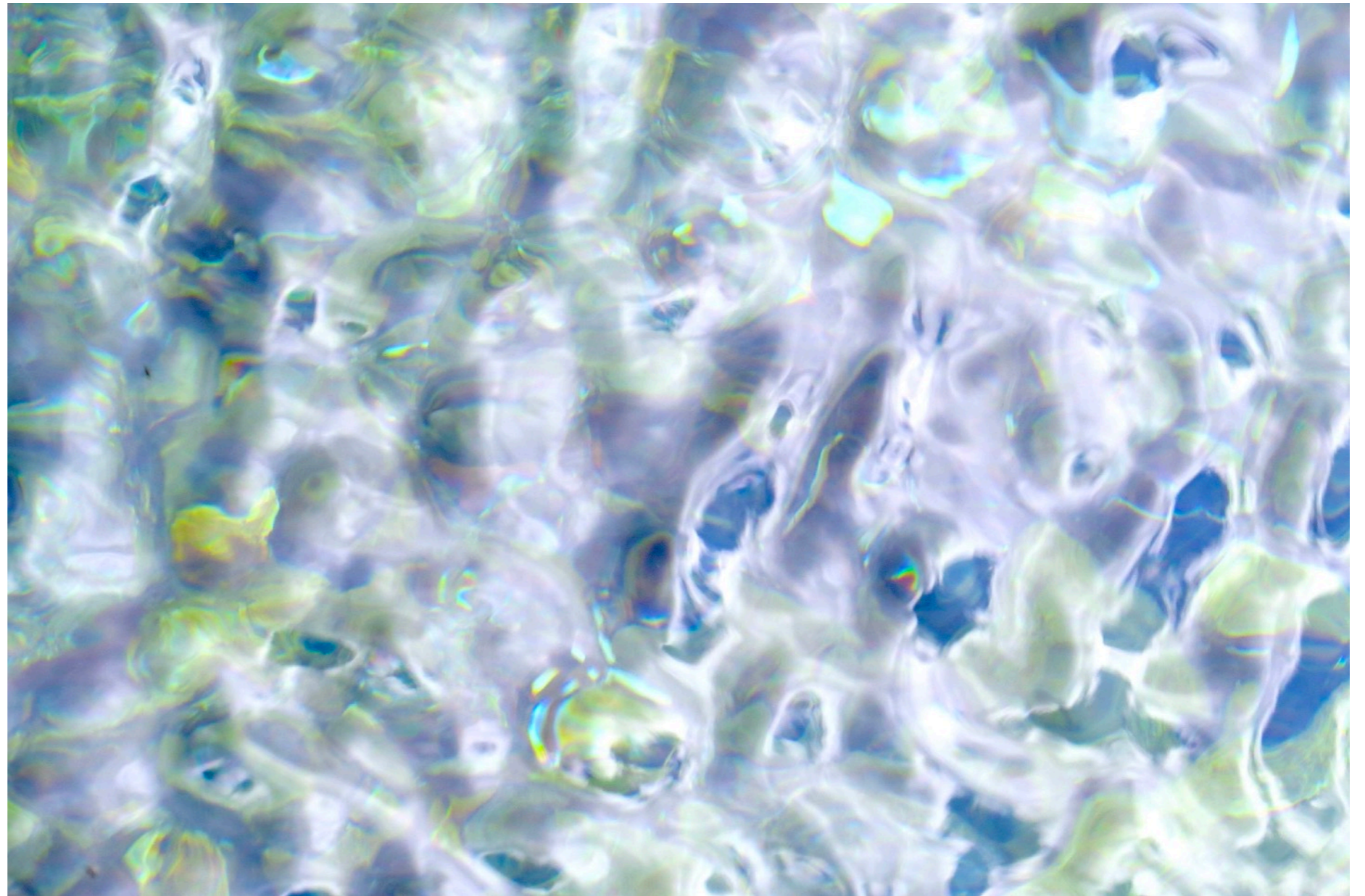
ひとと
じぶんは
からまりあって

ひとのためは
じぶんのため
じぶんのためは
ひとのため

じかんの
ふしぎが
みえたなら

かこと
みらいは
からまりあって

かこからみらいへ
みらいからかこへ
いまというじかんが
あそんでいる



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3137

2023.4.11

見えない
ところを
観るために

観るための
ところを育てる

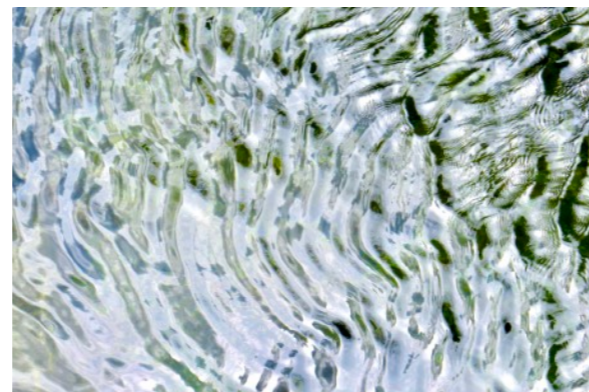
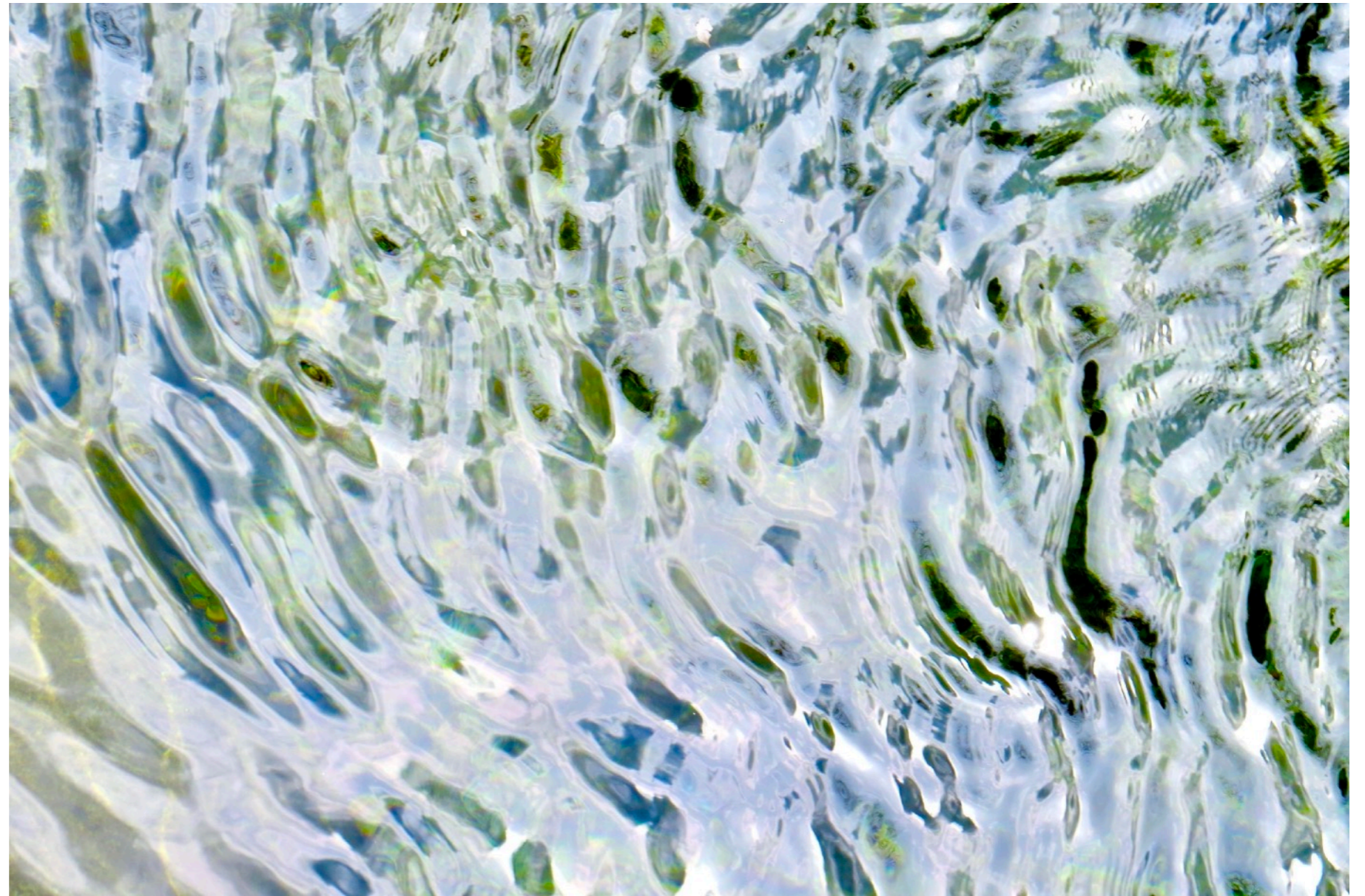
ところで
観たものを
伝えるために

伝えるための
言葉のからだをつくる

数学者は
数を言葉のからだとして

哲学者は
思考を言葉のからだとして

詩人は
ポエジーを言葉のからだとして



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

いつも
ここが世界の中心

変わらない中心はない
どんな辺境にいても
そこが中心になる

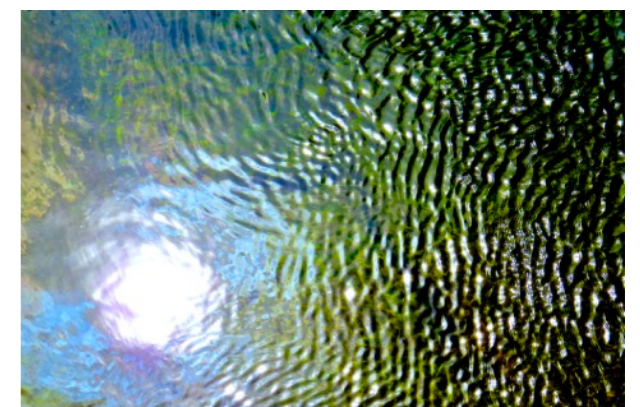
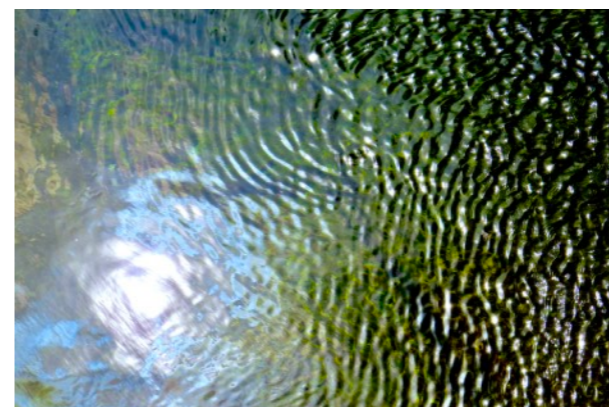
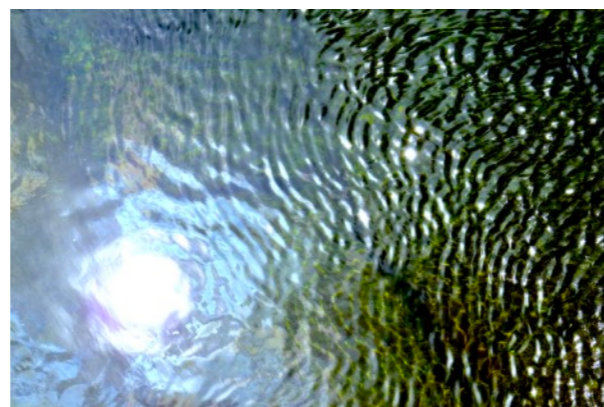
愛を叫ぶのも
光が生まれるのも
いつも辺境が中心

考えるときも
あたまが中心でなくていい

辺境としての
手や足も
からだのなかの臓器も
それぞれが中心になる

わたしがなにかをするときも
わたしが中心でなくていい

辺境としての
わたしでないわたしが
中心となることもあるのだから



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

なぜ
禁じられているのか

その理由を
知りたくはないか

頷ける理由ならば
禁じられることは
しないほうがいいだろうが

頷けないとき
禁じられている意味は
内から崩れ去り

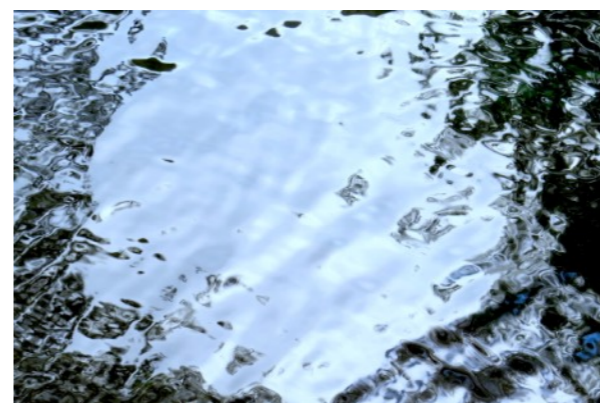
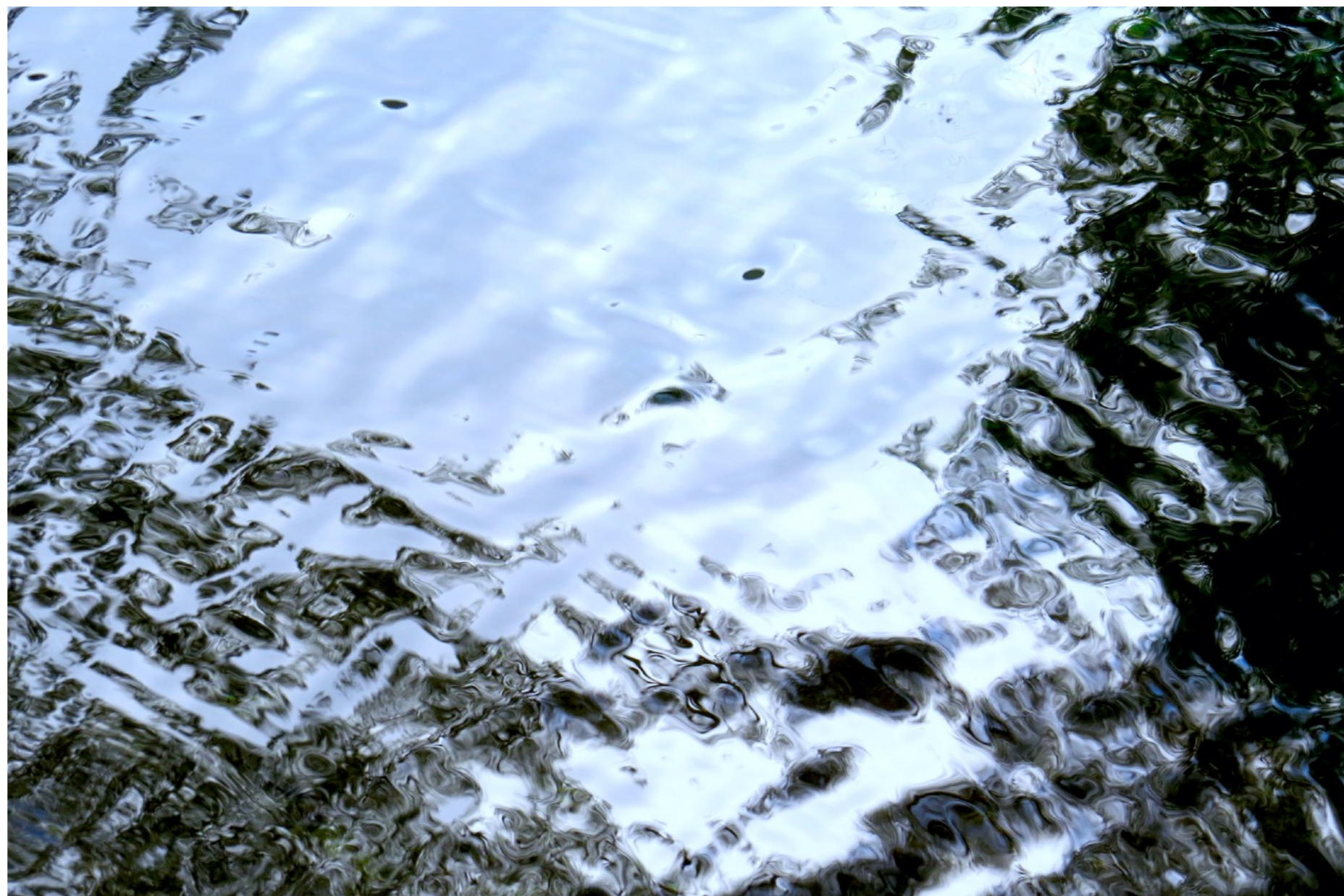
門番は
閉ざされていた扉を
開けざるをえなくなる

扉はいたるところにあり
門番もそこに立ち塞がっている

まずは問うことだ
なぜ扉を閉ざしているのかと

理由はわからないが
閉ざしておくことになっている

門番はそう答えるかもしれないが…



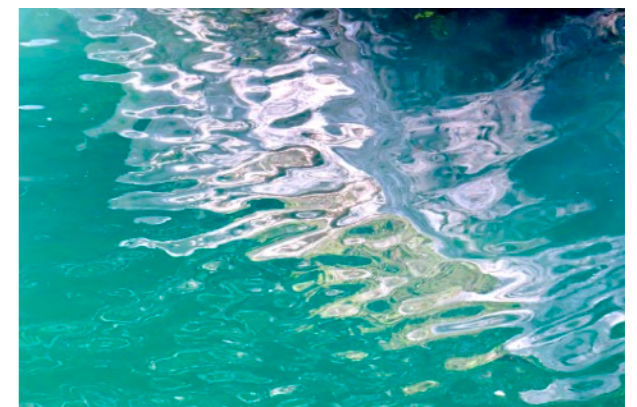
偶然はないが
自由はある

偶然のように
起こることも
その奥には
時空を超えた
見えない結び目があるから

偶然のように
生まれた私にも
どこか知らないところに
見えない結び目があり

偶然のように
起こることすべてにも
どこか知らないところに
見えない結び目があるだろう

私の結び目をつくるのは
見えない私である
そこに偶然の顔をして現れる
私の自由がある



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

死んだ抽象があり
生きた抽象がある

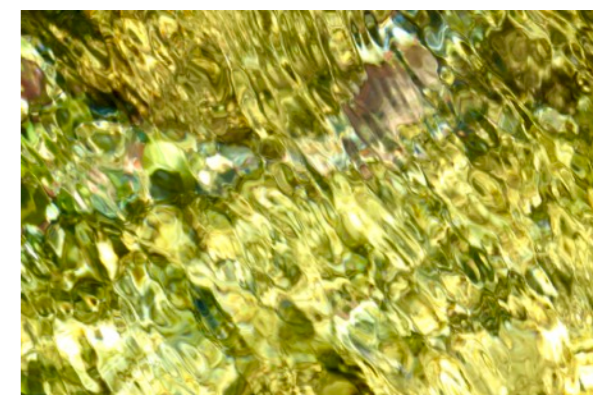
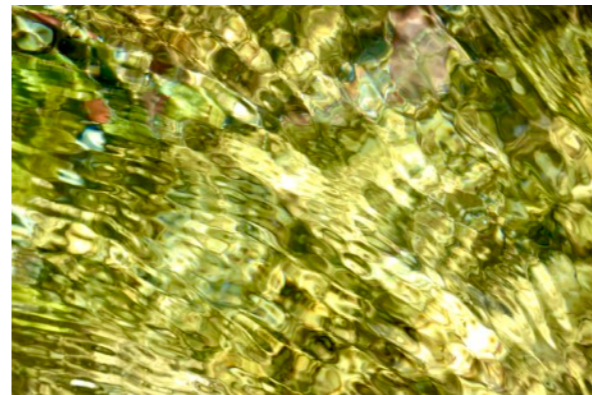
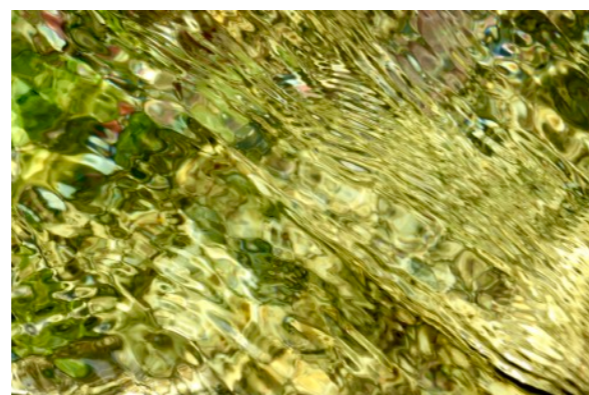
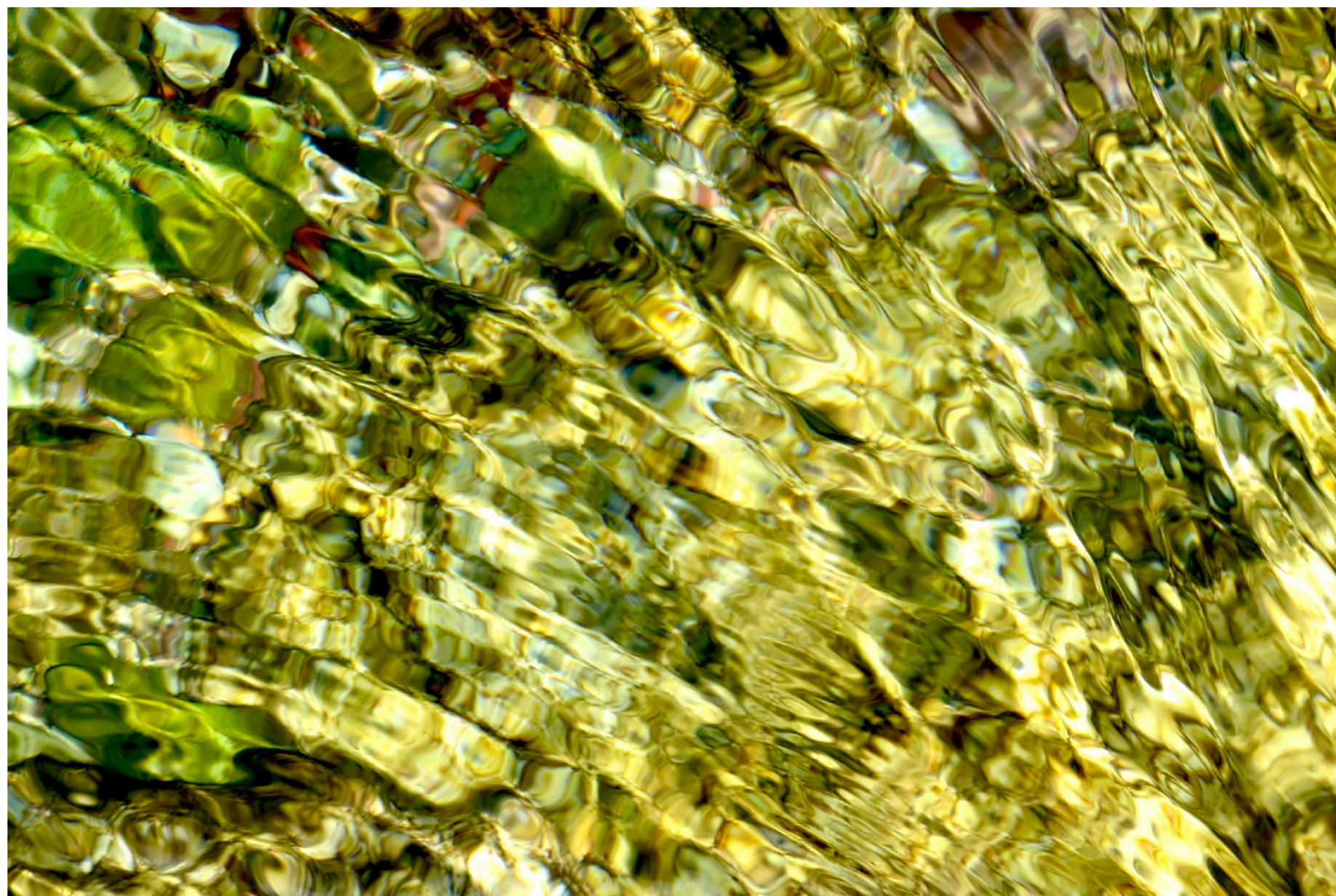
死んだ思考があり
生きた思考があるように

死んだ言葉があり
生きた言葉があるように

死んだ時間があり
生きた時間があるように

私たちは
教えられた知識を
知恵だと錯誤し
刷り込まれた感情を
愛だと取り違え
死んだ抽象を弄んではいけないか

今や白昼に
生きた光を探すことさえ
難しくなってきたてはいないか



わたしを見ている
鏡のなかのわたしと

あなたが見ている
写真のなかのわたしを
見ているわたしと

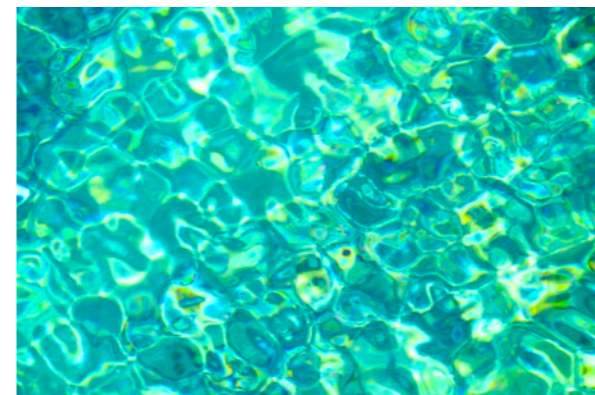
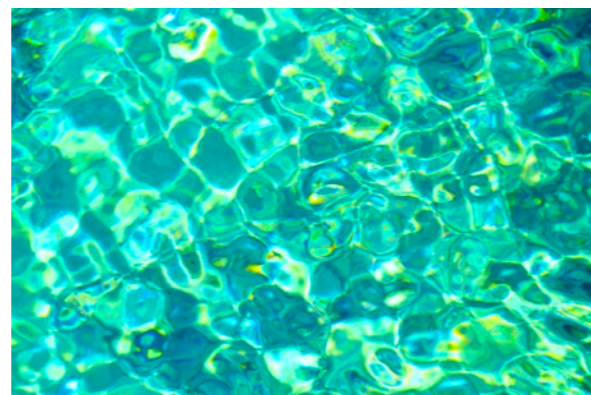
鏡のなかのわたしは
右目は右に
左目は左にあるけれど

写真のなかのわたしを見ると
右目は左に
左目は右にある

どちらがわたしのだろうか

どちらもわたしで
どちらもわたしではないから

わたしとあなたは
こうしてふれあうことで
右と左という境を
 超えようとするのだろうか



未知と
出会うために
生きている

はじめてのとき
すべては
未知との出会いとなる

ほんとうは
すべては
いまここで
はじめて
生まれているのに

そんな未知を
未知だとは思えなくなるとき
生きている意味も
見失われてしまう

いつも
はじめてを
生きていられますように



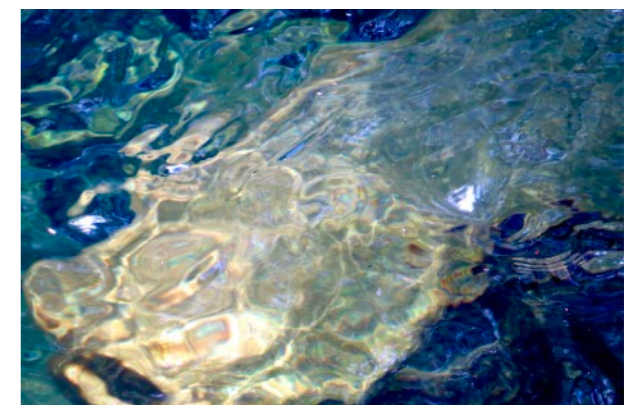
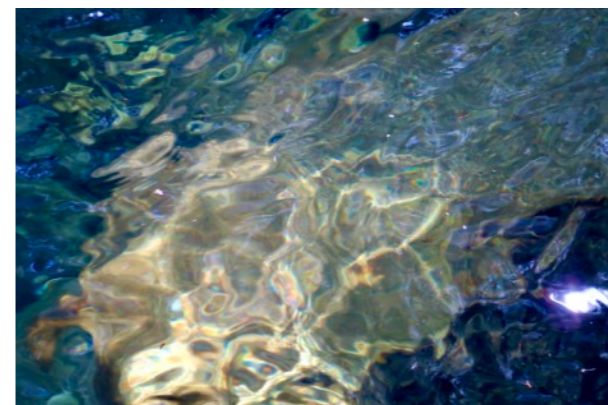
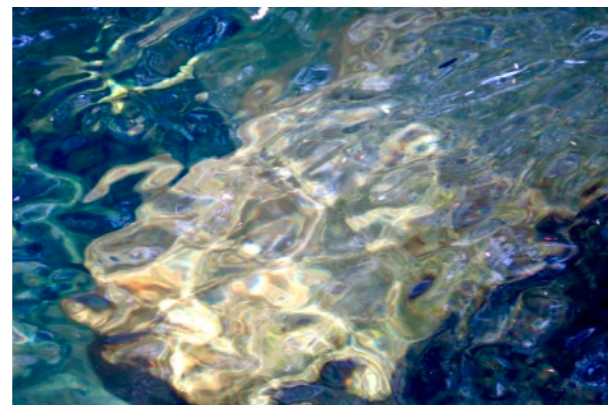
※愛媛県松山市・重信川にて

光のなかでは
光は見えないから
わたしたちは
暗闇を求めるのか

幸せのなかでは
幸せはわからないから
わたしたちは
不幸を引き寄せるのか

知性のなかでは
知性は輝かないから
わたしたちは
愚かさとともにあろうとするのか

平和のなかでは
平和は感じられないから
わたしたちは
争いに身を投じるのか



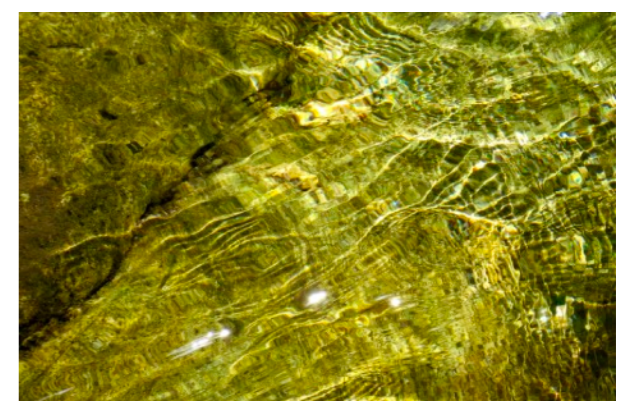
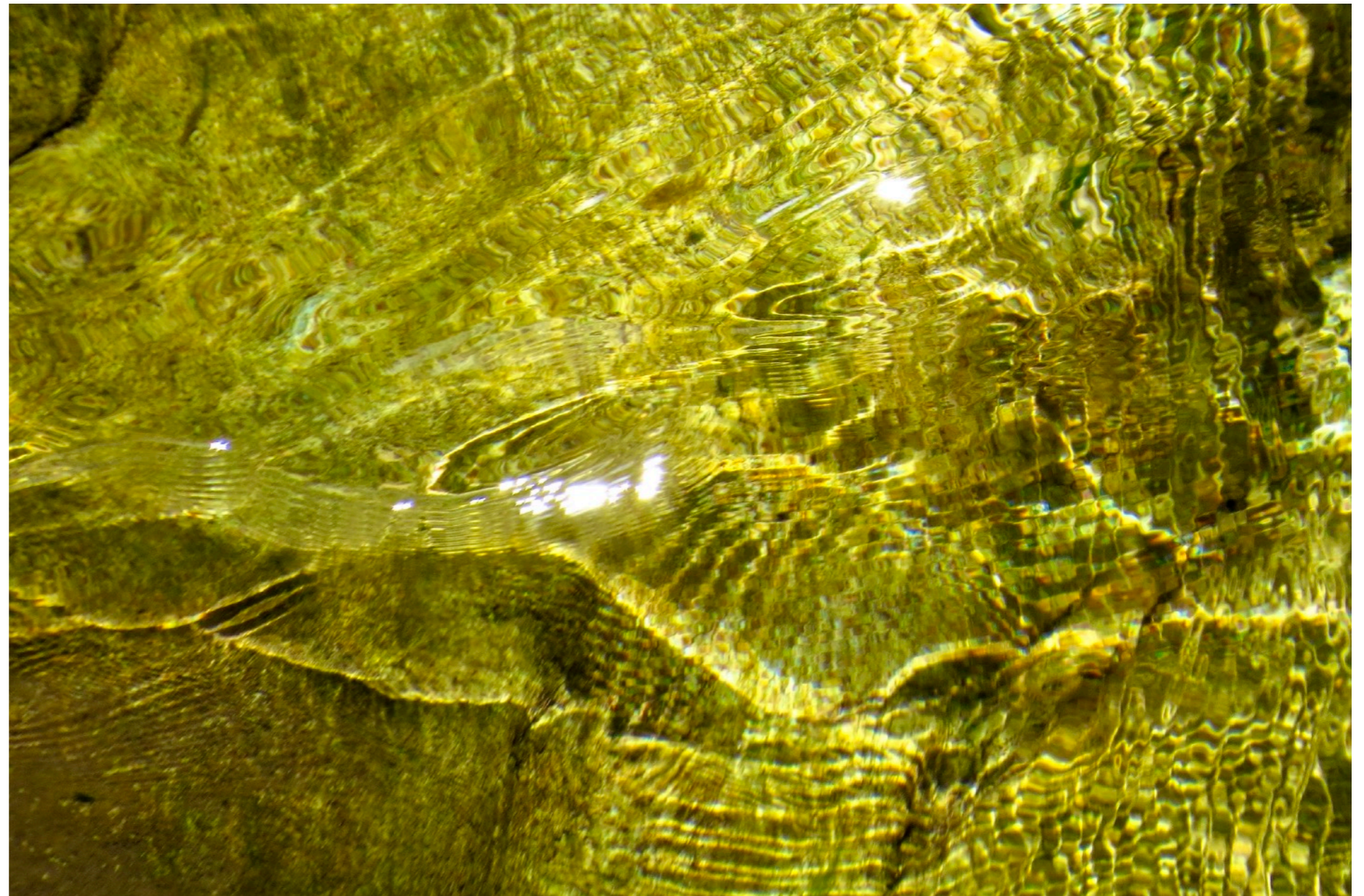
命じられたことを
命じられたままに
行う時代があり

教えられたことを
学ぶことで
行う時代があり

じぶんに問いかけ
それを愛と自由において
行う時代がある

ひとはいま
試されようとしている

どの時代を
生きようとするか
それが道をつくるからだ



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

真っ直ぐな道は
ファストフードのようだから
曲がりくねった道をゆくのがいい

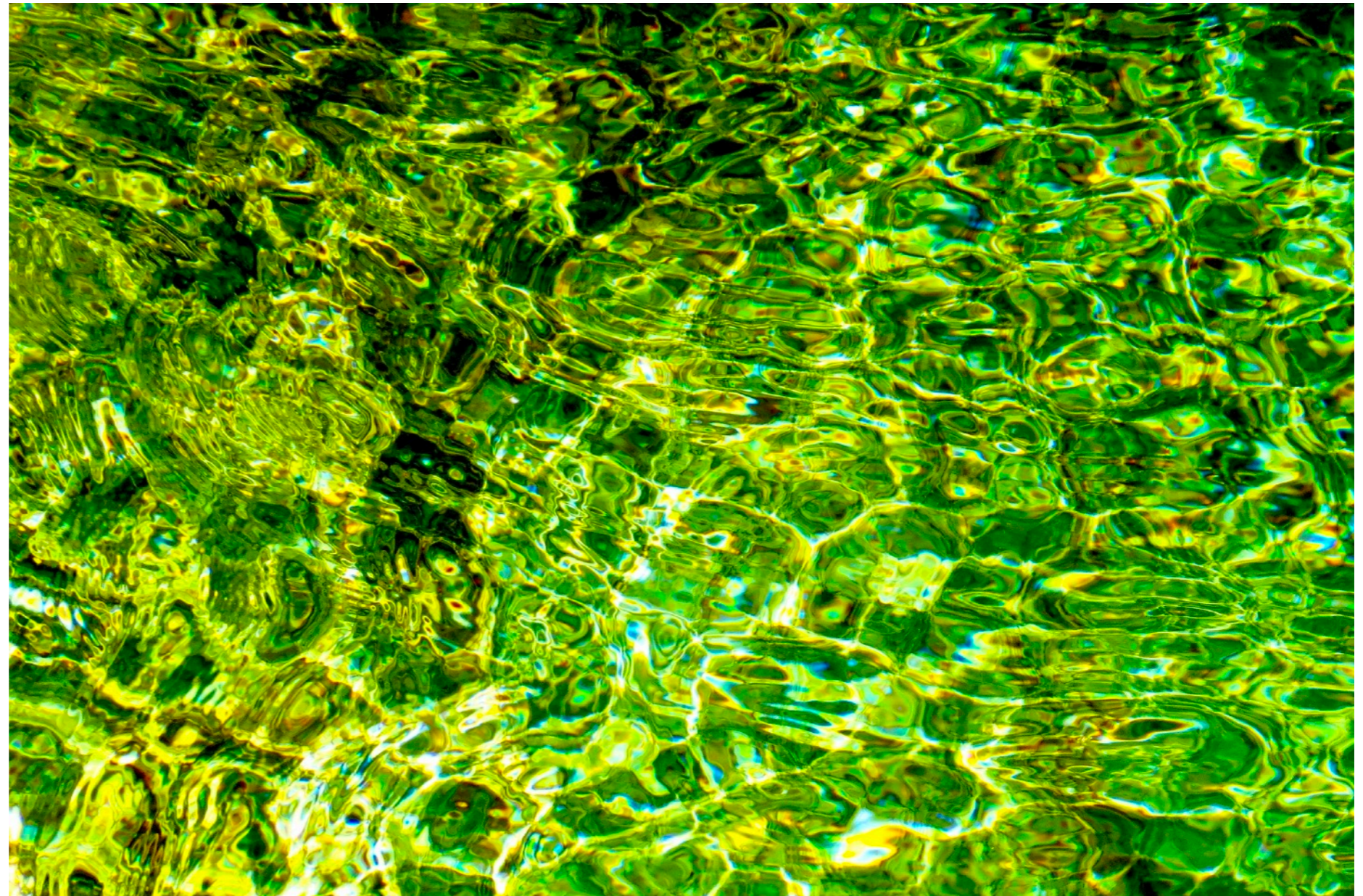
真っ直ぐな道は
そのまま目的地に向かうから
先の見えない道がいい

大きな道は
みんなでゆく道だから
ひとり小さな道をゆくのがいい

大きな道は
道草ができないから
小さな道を遊ぶのがいい

賢い道は
間違ふことを嫌うから
試行錯誤する迷路をゆくのがいい

賢い道は
愚かさが見えないから
愚者の迷路をゆくのがいい



わたしには
わたしという壁がある

わたしは壁の
内にいるのか
外にいるのか

内とはどこにあり
外とはどこにあるのか

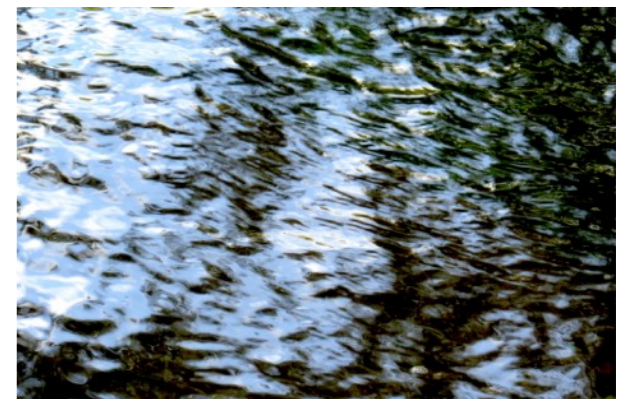
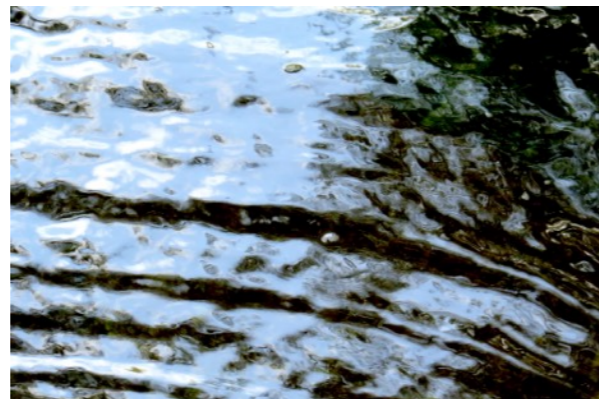
内とは何なのか
外とは何なのか

現（うつつ）は内に生まれるのか
外に生まれるのか
夢は内に生まれるのか
外に生まれるのか

光は内を照らすのか
外を照らすのか
闇は内に潜むのか
外に潜むのか

生は内にあるのか
外にあるのか
死は内にあるのか
外にあるのか

わたしは
内と外の
境で
内と外を
ともに映すことのできる
そんな鏡となって
生きることにする



眼を閉じなければ
見えないものがある

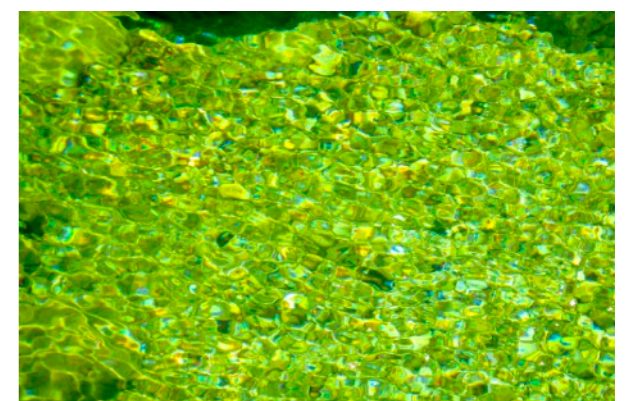
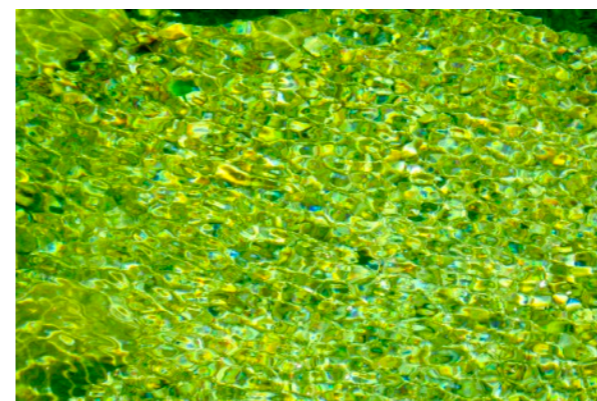
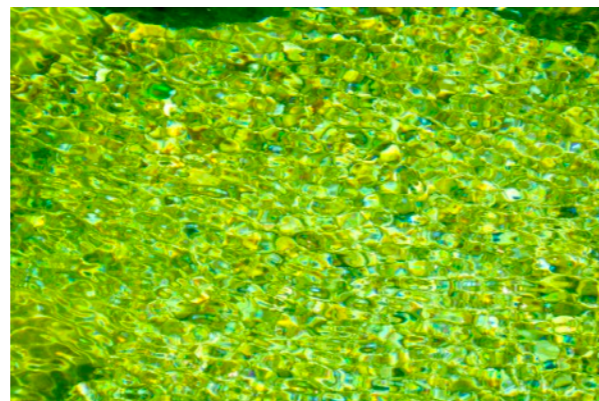
見るときにはいつも
レンズを通して
見てしまうからだ

眼を閉じて
じかに見なければ
観ることはできない

教えられたことを
忘れなければならない

考えるときにはいつも
思想を通して
考えてしまうからだ

教えられたことを忘れて
じぶんで直観しなければ
考えることはできない



好き
は
好き

なにかのために
好きにはならない

好き
だから
好き
なのに

そこに
理由を探しはじめたとき

好き
は
もう
好きとは
別のものになってしまう

好き
は
自由

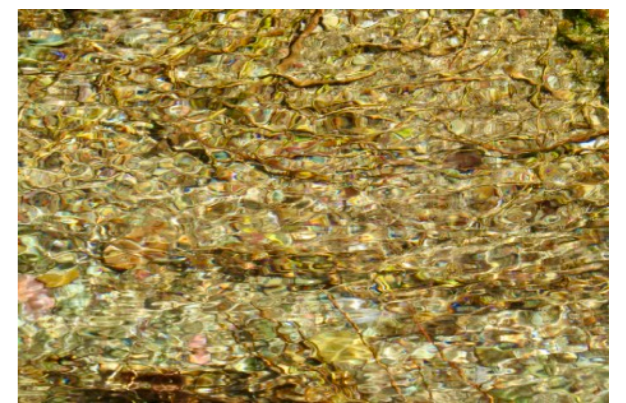
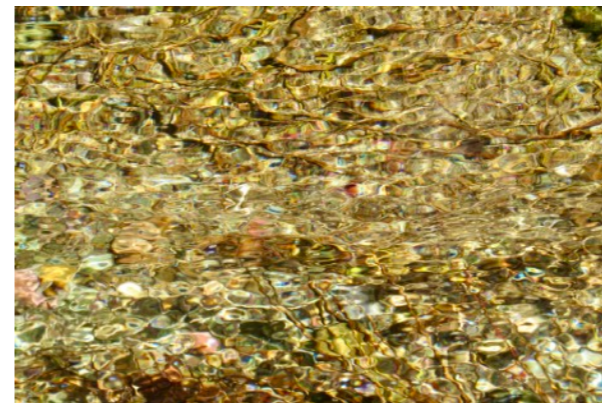
自由は
理由を超えている

好きは
遊び

遊びは
理由を超えている

好き
は
好き

だから
好き



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

からだは
から
だけど

から
だから
そこに
せかいが
ひらかれる

からだ
があるから
からだを
ひろげられる

からだ
があるから
せかいを
ひろげられる

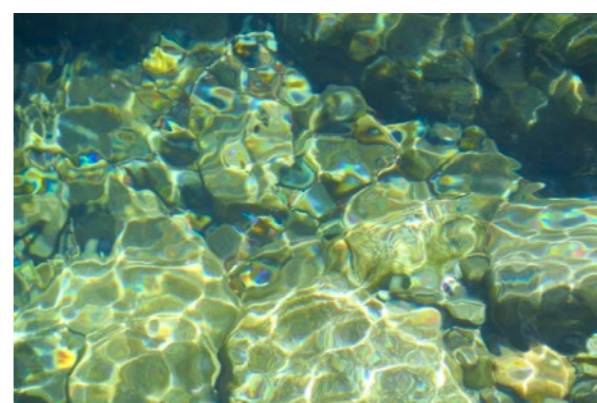
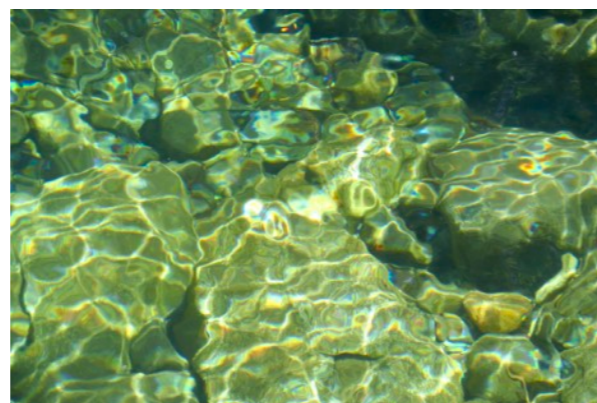
からだ
があるから
いきていける

からだ
があるから
あいすることができる

からだ
があるから
せつなくもなれる

からだは
みえるけれど
みえない

そんな
からだ
という
ふしぎとともに
いきる



※愛媛県久万高原町・面河溪にて